光と影までも小筆で繊細に表現

布目 朱美 さん

「きれいな文字が書けるようになりたい」という思いから通い始めた書道教室で、布目朱美さんは先生が描いた線描画の作品と出会い、心惹かれます。何度も失敗しながら試行錯誤し、少しずつ作品の数も増えてきました。「市内の美しい景色や後世に伝えたい自然を描いて残しておきたい」という思いから筆を取り、三ツ堀里山自然園を描く布目さん。そこにはどんなエピソードがあるのでしょうか。

三ツ堀里山自然園

布目さんが作成した作品の数々。「野田かるた」は市内小中学校のかるた大会でも使用され、現在も販売中

故郷の思い出と重なる 三ツ堀里山自然園の風景

最新作の風景に選んだ三ツ堀里山自然園は、時々旦那様とふらっと立ち寄る場所だそうです。

「私は5歳からずっと東京の下町で育ちましたから、自然に触れる機会がなかったのです。初めて秋田にある主人の実家に行ったときに、田んぼと畑の区別がつかなかったくらい(笑)。それ以来、自然が大好きになりました。野田市は、緑がたくさん残っているまちです。特に、三ツ堀里山自然園は木々が茂り、池にはカモがいて、メダカも泳いでいる里山の風景そのもの。この景色を眺めているだけで、心が癒されます」

三ツ堀周辺の風景は、秋田での思い出と重なり、布目さんにとっては大切にしたい場所なのです。

線を何度か重ねて 絵の表情を変える

布目さんが書道を始めたきっかけは、娘さんが大学へ進学して少し落ち着いたことと、医療事務での収入で何か趣味を始めたい、書道を習って達筆になりたいということからでした。線描画は小筆を立てて描くので、書道の練習にもなります。最初は先生の作品を真似ることから始めました。